

## 本年度の重点目標

- ① 多様な児童生徒の主体的な学びを促す授業力の向上  
 ② 個に応じた自立と社会参加に向けた系統的なキャリア教育の実施  
 ③ 自分も仲間も大切にできる人権教育の推進  
 ④ 安全安心な教育環境の整備  
 ⑤ 地域・関係機関とのネットワークの構築と協働

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	1)校長は、学校課題を踏まえて教育目標を設定し、教職員、保護者にわかりやすく説明している。			
	2)教育目標の実現に向けて、全職員が力を合わせて教育活動に取り組んでいる。			
2 教育課程・学習指導	3)多様な児童生徒の主体的な学びを促すため、教育的ニーズに応じた学習を丁寧に展開している。			
	4)教育活動全体にわたり、児童生徒にとってわかりやすい授業を実践している。			
3 生徒指導	5)幅広い児童生徒の状況に応じたきめ細かい指導をしている。			
	6)日頃より、児童生徒の言動を丁寧に把握し、いじめや問題行動を見逃さない指導を行っている。			
4 進路指導	7)児童生徒一人ひとりの実態や課題に合ったキャリア教育を進め、自立に向けた取り組みや就労体験を計画的に実施している。			
	8)児童生徒に対して適切に進路指導が行えるように進路状況や福祉制度等の情報の把握に努めている。			
5 保健・安全指導	9)児童生徒個々の健康状態について丁寧に観察し、健康管理に努めている。			
	10)児童生徒のけが、病気、事故などについて、迅速に対応している。			
	11)施設設備の安全管理、整備、清掃に取り組み、校内事故防止に努めている。			
	12)安全で衛生的な環境の中で学習できるように、教材教具の整理整頓を日々行っている。			
6 人権教育	13)児童生徒の登下校指導を含め、学校生活全体の安全のため点検、指導を行っている。			
	14)日頃の児童生徒の様子について、保護者との連絡を密にし、きめ細かく連携している。			
7 環境教育	15)友だちや人を思いやる気持ち、自分を大切にす気持ち、自己肯定感を育てる教育に努めている。			
	16)清掃活動や体験学習を通して、環境教育の推進に努めている。			
8 交流及び共同学習	17)他校との交流及び共同学習を推進し、インクルーシブ教育システムの構築に向けて理解と支援を広げている。			
9 教職員の現職教育	18)特別支援教育、ICT活用指導力、ステージ研修(初任、2年、3年、6年G-OJT、中堅)等を効果的に取り入れ、実践力の向上に努めている。			
	19)校内研究を計画的に実施し、学部を超えた研究活動等とおして実践力の向上に努めている。			
10 センターの機能の発揮	20)地域のニーズに応じた教育相談体制を整えている。			
	21)就学相談や巡回相談などを通して関係機関との連携を推進し、地域のニーズに応じたセンター的機能を発揮している。			
11 その他学校の取組	22)医療的ケアを必要とする児童生徒の教育条件の整備を進めている。			
	23)避難訓練、不審者対応訓練の実施、緊急時マニュアルの整備など、学校防災、危機管理体制の充実に努めている。			
	24)労働安全衛生の観点を持ち、職場環境の改善に向けて組織的に取り組んでいる。			
	25)PTA活動を通じて保護者の悩みやニーズを受け止め、児童生徒の成長を共有し合う関係を築いている。			
	26)学校運営協議会との連携を図り、特色ある学校づくりに努めている。			

(注)・評価については、ABCDの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価:ABCDの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にABCDの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。